

(150) 栃木県塩谷町の玉船鉾山

この鉾山は参考文献(1)では、白銀鉾山と一緒に紹介している。両鉾山は鉾区が隣接し、同一権者の所有であるだけでなく、鉾床の性状も同様な故に。白銀鉾山は本探査記で既報であるので、本項では玉船鉾山について報告する。なを本鉾床は石英斑岩、流紋岩中の含金石英脈である。

白銀鉾山は現地を確認できていたが、参考文献(1)の紹介内容だけでは玉船鉾山の現地予想ができていなかった。そのうちに、他の金山跡の資料収集で参考文献(2)を入手することができた。図2、3に、この文献中に掲載されている玉船鉾山位置と鉾山坑内外関連図を複写掲載しておいた。図2中で、寺島(14)、万珠(16)、石尊山(18)は本探査記で既報である。寺島鉾山の近傍に玉船(15)が明記されている。が、文献(1)で記述されている白銀鉾山の位置は記されていない。各文献中での内容のズレはよくあることである。

図2から、玉船鉾山は既探査の寺島鉾山と同じ沢の上流部にあることが視認できる。又、図3には現地の地形図、坑口その他の位置が明記もされている。この図を現在の地形図と対照すると比較的良く合致している。これらの情報を手がかりに現地の探査に向かった。2回の探査の結果、玉船鉾山跡を確認することができた。良い標本を採集はできていないが、多数の坑口跡を確認した。

本鉾山跡への経路は次の通りである。塩谷町の玉生から63号線を北上していき、寺島地区で273号線に入る。北西方向に約1kmすすみ、目前にある橋の手前で左折し、林道に入り進んで行く。林道は途中一部未舗装である。が、幅のあるいい林道である。

初回の探査は、図4中のP1点の所に駐車し、そこから沢を遡った、開けた沢上部等で、幾つかの坑口を確認後、尾根の向こう側にあった舗装された立派な林道に至った。図5中のP2点である。この林道をP1まで下った。得られた探査結果と資料を比較検討した。確認した坑口跡が少ないことと、良い標本を採取できていないこと等から、再探査が必要であると考え、2回目の探査を行った。

2回目の探査は、林道を車で進みP2に駐車した。ここからならば、鉾山跡は極近傍である。山の斜面はなだらかであり、夏でも下草も少なく、歩き安い。結果、更に幾つかの坑口を確認した。

探査日 2017年8月、9月

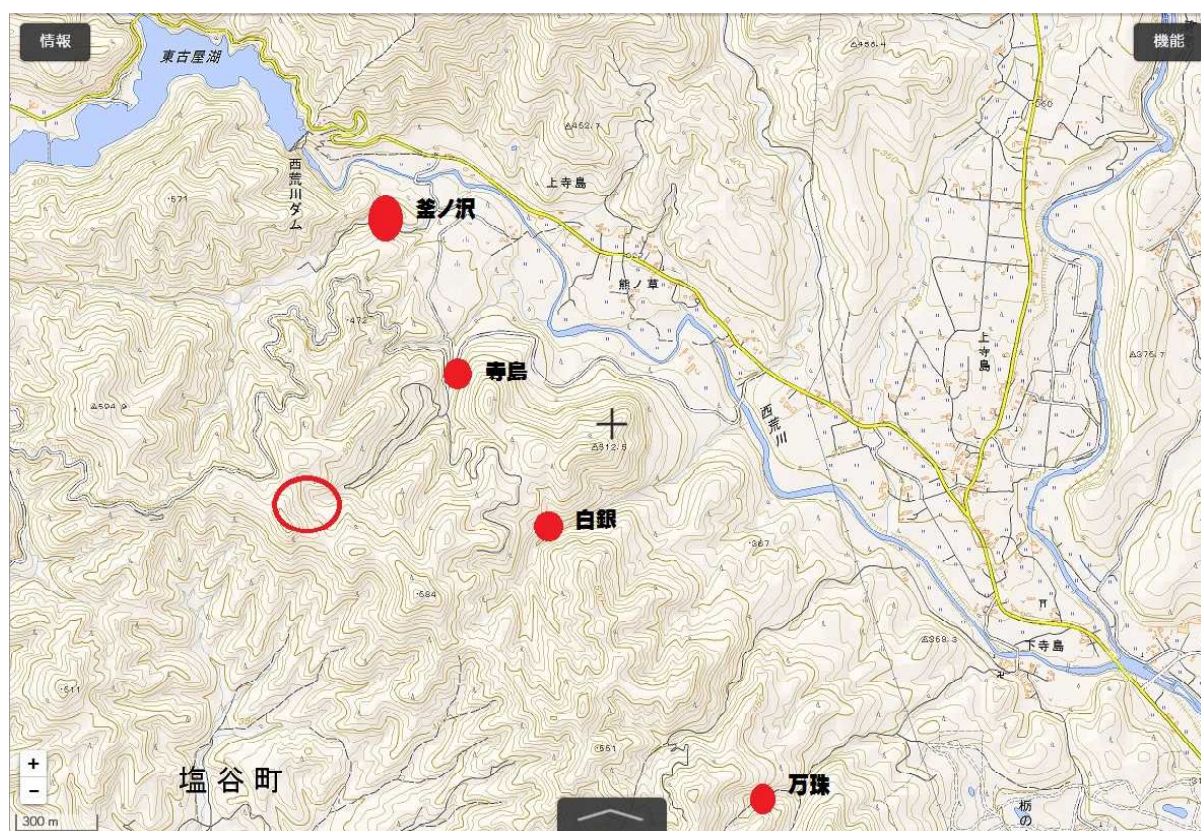


図1 赤輪が玉船鉾山跡。本探査記で既報の他の鉾山跡4箇所を赤丸で記している。

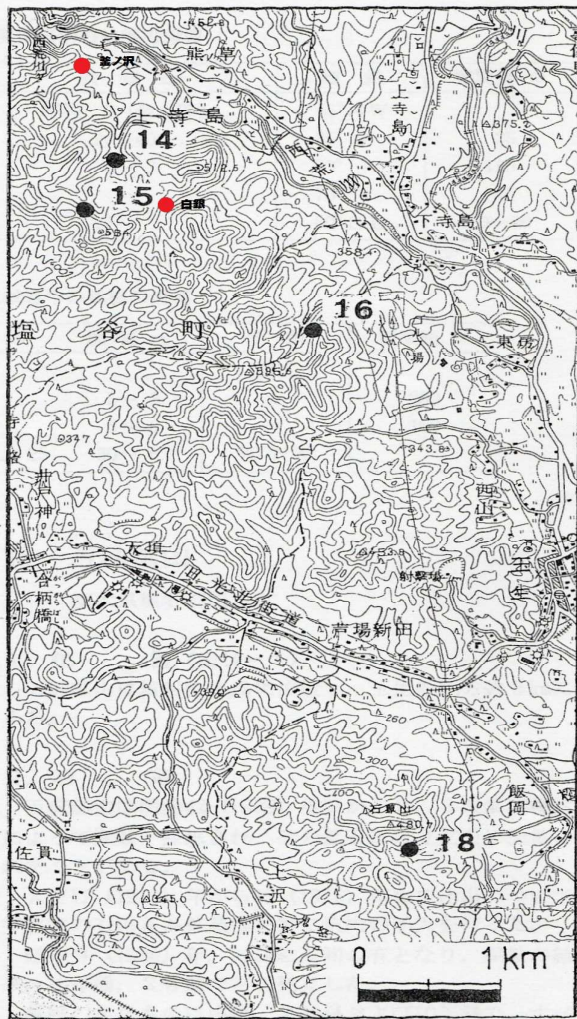


図14-1 寺島(14), 玉船(15), 万珠(16), 石尊山(18)
鉾山位置図
国土地理院 5万分の1 矢板(S62)

図2 参考文献(2)より。赤丸で著者の確認した釜ノ沢鉾山跡、白銀鉾山跡を加筆している。この図より、玉船鉾山は寺島鉾山のある沢の上流、尾根近傍にあることがわかる。

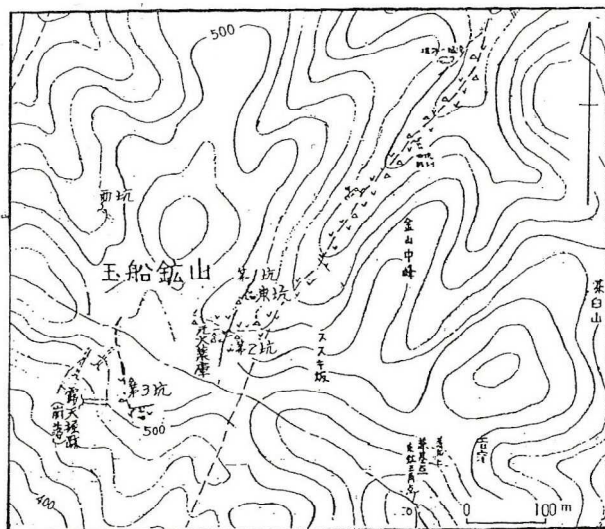


図15-1 玉船鉾山坑内外関連図

図3 参考文献(2)より。この図は最新の地形図と結構良く対応している。幾つかの坑口記号が確認できる。が、原図でも読み取れない文字、記号があった。なを、この図は、原図とほぼ同じ大きさである。

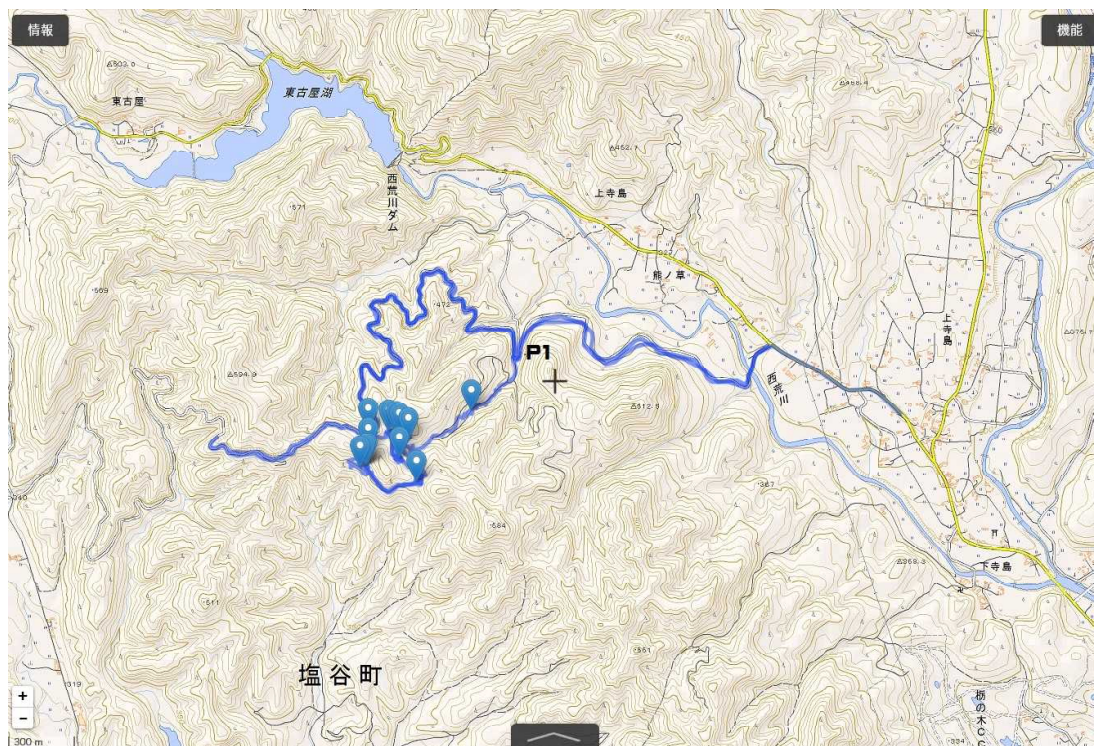


図4 GPS装置のガーミンで得られた探査時の経路を青色曲線で示している。2回分を重ね描いている。1回目はP1点付近に駐車。沢を登り上がり、途中林道らしいところに入り、尾根に達した後、小山を大きく迂回して、図5中のP2点で立派な林道に降り立った。その後、P2からP1まで林道を下った。幅が広く、舗装された立派な林道であった。

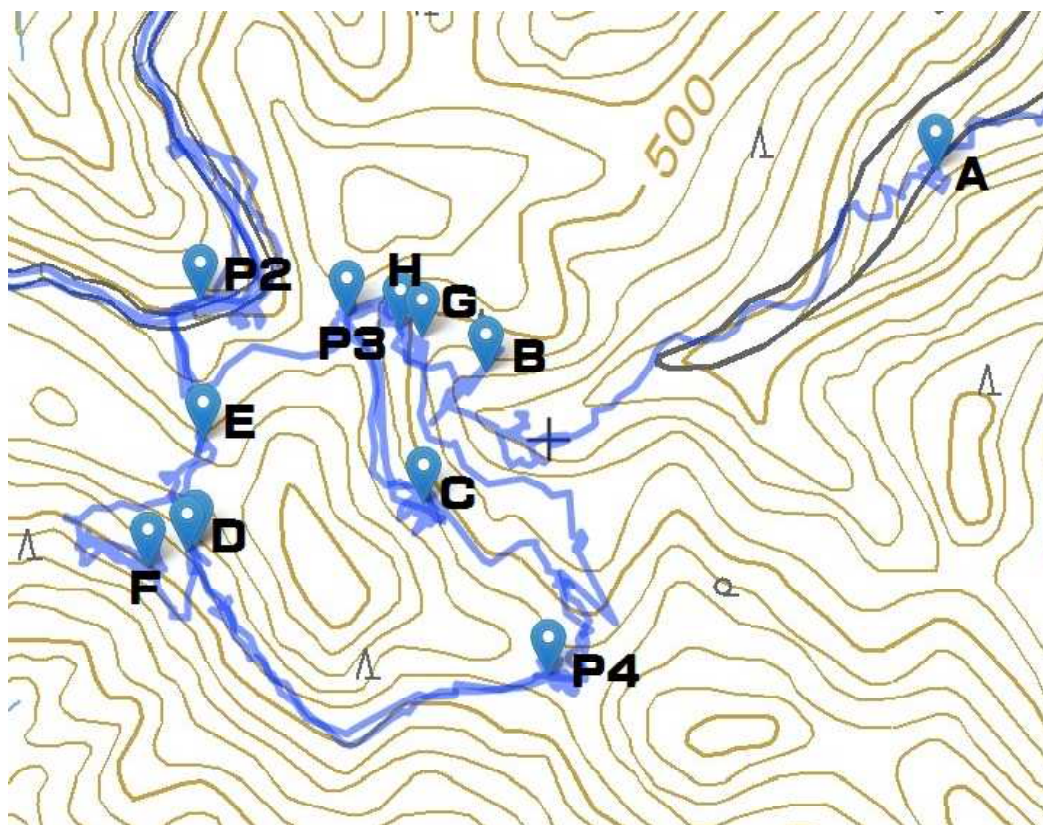


図5 図4の部分拡大図。1回目の探査では、図4中のP1点から沢に入った。林道はほぼ無し。A点まで河床を進んだが、倒木が酷く、前進を諦めかけたが、地形図には山斜面にも林道が記されていることに気がついた。斜面を少し登ると、自然に埋もれかけた林道があった。先に進んでいくと、

開けた斜面に辿り着いた。山の斜面の上部に「新」林道が開削されていた。B点で、埋もれたであろう坑口跡を見つけた。P3点で尾根に達し「新」林道を下る。C点で林道脇に、掘り込まれた露頭鉦脈跡を見つけた。林道を下り、途中で、林道から離れ鞍部のP4点に達した。図3に記されている坑口跡確認のため、小山を迂回し、D点で坑口跡を確認した。その後、軽い尾根を乗り越え、尾根の下りのE点に正に消えかかっている坑口跡を確認した。P2点で立派な林道に立った。その後、P1点まで舗装された林道を下った。

2回目の探査では、P2点付近に駐車し、E→F→D→P4→G→H→P3→C→P3→P2の経路を辿った。

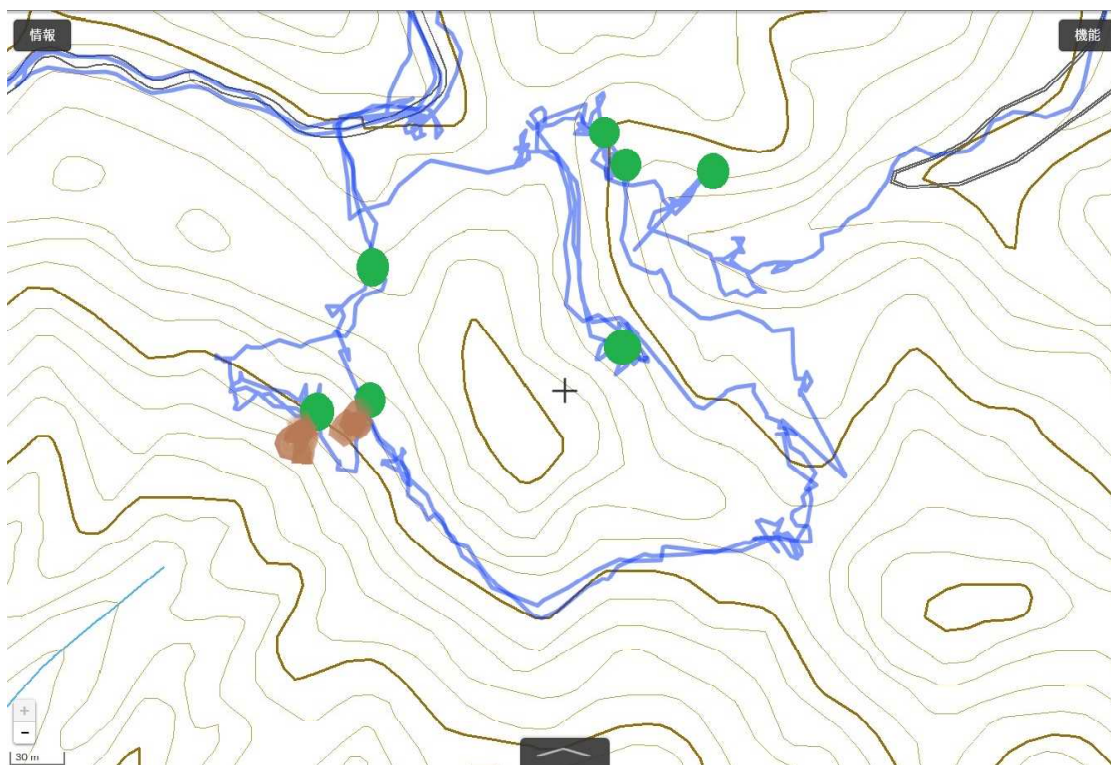


図6 図5ではマーカーやアルファベット文字が邪魔をしているようなので、この図で、確認した坑口跡を黄緑色丸で示す。7つの坑口を確認した。参考文献によるともう少しあったようである。なを、茶色のベタはズリである。

鉦山跡写真

1回目の探査で撮影。経路順に掲載している。つまり、P1→A→B→P3→C→P4→D→E→P2の経路。



写真1 図4のP1点である。林道は沢を跨いで大きくUターンしている。ここから沢を登り上がるが、図4、5に記された河床に沿った林道はほぼ消え失せている。なを、この沢の下流部、写真の右下に、寺島鉦山跡がある。



写真2 図5中のA点の所である。沢への倒木が多く、河床の前進は困難。右側の斜面を少し登り上がり、別の林道に辿り着いた。一応生き残っていたようである。



写真3 坑口跡と覚しき箇所。B点である。資料と対応させると、第1坑か東坑跡と見た。下には石英のズリは皆無である。



写真4 鞍部まで登り上がった。P3点である。鞍部を跨いで新しい林道が左右に開削されていた。この林道を左側に進む。

写真5 C点である。林道脇、山側に露天掘り跡らしい箇所を確認。林道開削で、大きく切り崩されたようである。



写真6 写真5で示した切り開きの上部に暗い穴が見えた。切り開きを脇から登り上がり、カメラを差し入れて撮影。立派な坑道が先まで伸びている。



写真7 D点である。人為的なプラトーがあり、その下にはズリ。が石英ズリは全くない。



写真8 写真7で示している箇所山の斜面。大きくくぼんでいる。坑口跡か、露天掘りの跡と思われる。この後、鞍部を乗り越えてP2点で、立派な舗装林道に立った。その後、P1まで歩いて下った。

2回目の探査で撮影。この時の経路は、P 2→E→F→D→P 4→G→H→P 3→C→P 3→P 2。



写真 9 P 2点である。何故か谷側に人工の堆積土砂がある。林道は立派な舗装道路である。中央あたりに明るい光の筋がある。ここが、開削された林道入口である。入ってみると、緩やかな斜面である。



写真 10 E点である。写真中央部に、ほぼ隠されかかっているが、坑口跡である。



写真 11 写真 10で示した坑口跡にカメラを差し入れて撮影。内部もかなり土砂で埋まっている。



写真 12 F点で確認した坑口跡。中央の黒い部分が坑口。



写真13 写真12に示している坑口にカメラを差し入れて撮影。綺麗な坑道が奥まで伸びている。



写真14 G点である。古い林道脇にあった坑口跡。坑口の高さは4m～5m。入口付近を刈り払ってからの撮影。草木が茂っている時期には、見失うかも知れない。



写真15 写真14に示した坑口に少し入ってから撮影。入るとあちらこちらの方向に坑道が伸びていた。そのうちの1つ。

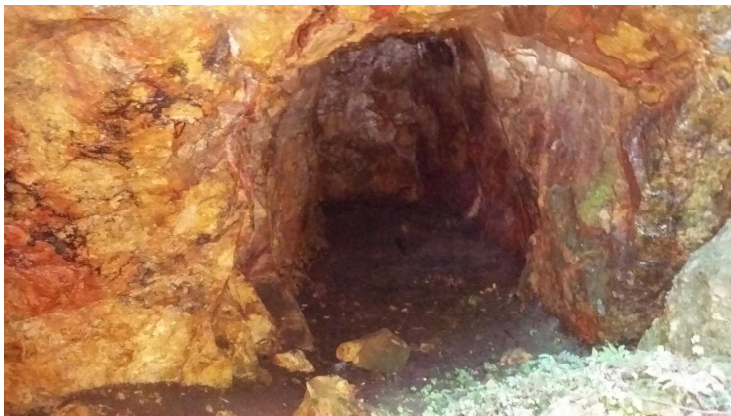


写真１６ 同上。そのうちの一つ。



写真１７ 同上。さらに一つ。

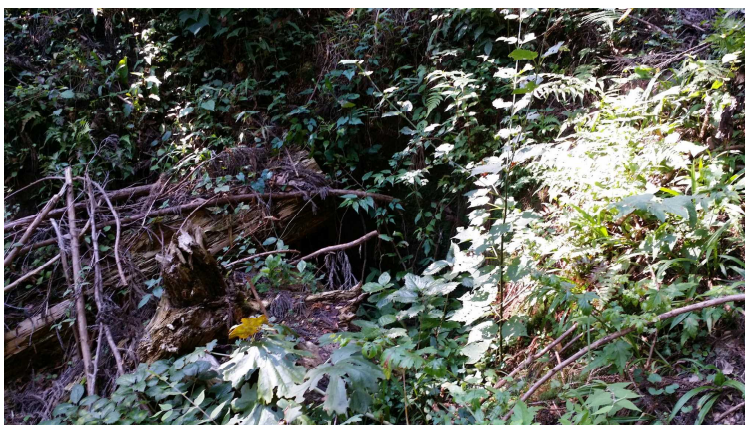


写真１８ G点から少し林道を進み上がったところで見つけた、暗くて深い穴。ほぼ埋まりかけた坑口跡と思う。近づくのが面倒な程の様子であったので、内部写真は未撮影。写真１４の隣にあった「穴」である。思うにこの２つは奥で繋がっているのでは。

採集鉱物

なし。

参考文献

- (１)「塩原図幅地質説明書」、岩生、今井、地質調査所、昭和３０年。
- (２)「日本金山誌 第４編 関東・中部」、社団法人 資源・素材学会、１９９４年。